

## カニムシとの初対面

未明のことだった。外から帰った飼い猫が私の枕元でどたばたと騒がしい。実は夜中になると数回は「外に出せ！」と騒ぎ毎夜安眠妨害となっていたので、自由に出入りできる専用の出入り口を作ってやった。ところが、今度は毎夜のごとくネズミをくわえてくるのである。今夜もそうだ。

私は眠くて開かない目をこすりながら、ネズミをくわえた猫を背後から持ち上げて家の外へと出した。

最近、子供たちを観察会等に連れ出すのでダニに敏感になっている私は、「ネズミにはダニが付いていないだろうか」と常々気になっていて猫が遊んでいた後を注意深く捜した。

「いた！何か動いている。」目を近づけると

「足が4対だ」「頭と胴！胸がない」。数ミリの虫が動き回っている。「昆虫ではない。ダニの域からも外れない」。でも「長いハサミが付いている」「こんなダニは見たこともないし、ハサミは吸血には邪魔だ」とスッキリしない頭を廻す。



とにかく、夜が明けたら写真を撮ってなにものなのか同定しようと、逃げないようにセロテープの粘着部分に挟み込んで、彼には気の毒だが朝まで待つこととした。

朝になって、注意深く未知の生物がいるセロテープを注意深く開いていった。「ハサミの腕が動いている」、「体も動いている」、セロテープから脱出したかれはハサミを前に振りかざしロボットのように、あたかも工事車輛のようなしぐさで動き回ったのである。「生きていた」何者かは分からなかったけれど無事だったことに安堵した。そして写真を撮った後そっと近くの草むらの中に返した。



早速、写真とインターネットの画像を見比べて名前を探した。なんなく「カニムシ」と判明したのである。ほんとうにインターネットは便利だと感じた瞬間でもあった。そういえば以前に聞いたことのある名前だった。道路わき(に限らなくてもよいが)の落葉をほじくり帰すとダンゴムシやカニムシがいるといったような内容であった。とにかく私にとって初対面となったできごとであった。